

国民文化祭にいがた
「詞フエステイバル」
良寛関係の入賞・入
選作品の紹介

その1 俳句

第34回国民文化祭・にいがた2019
第19回全国障害者芸術・文化祭に
いがた大会の「詞フエステイバル」
で栄えある入賞・入選を果たした
作品のうち、良寛をテーマとした
俳句を紹介します。なお、作者名
は入賞のみとしました。また、選
者特選入選の数は選者の数です。
次号では短歌を紹介します。

【俳句・一般の部】

(文部科学大臣賞 選者特選2入
選2 新潟県 宮京子)

月の夜は良寛となる案山子翁

(国民文化祭実行委員会会長賞
選者特選1入選2 新潟県 菅沼
儀忠)

沖に佐渡良寛堂の松手入れ

(俳人協会賞 選者特選1入選1
新潟県 井口光雄)

良寛の恋文ほどの春落葉

「入選作品」

(選者特選1入選1)

良寛さ片貝花火にたまげなした
良寛の手蹟ほぐるるやうに蚪蚪(か

と)

良寛を庵(いお)に待たせて今日の
月

(選者特選1)

良寛の屈背(くぐせ)に落葉時雨か
な
天上は大風(おおかぜ)なるや稲穂
波

手毬唄ひとりとなりて声澄めり
月の道もしや良寛さまです

良寛の足跡をいまかたつむり
狐火の踊るにまかす五合庵

良寛の遊び上手に日脚(ひあし)伸
ぶ
小春日の母に残りし手毬唄

頑是(がんぜ)無い子を放たれよ春
の野に

(選者入選2)

母の声聞こえて来さう手毬唄
和尚ゆく冬の星座を従へて

隣家まで雪踏み分くる良寛忌
良寛の托鉢の道青田風

(選者入選1)

良寛論つひに書き終へ卒業す
良寛も渡りし川や蘆(あし)の角(つ
の)

さくら散る良寛さんの書のやうに
杖の母深呼吸する五合庵

良寛の座像へぶらんこ毛虫かな
春風や悲登利安處非と歌碑の云ひ

散る花や酒呑童子の井戸の闇
いろはにほ遺墨親しき良寛忌

良寛も手鞠も春の日和かな
五合庵腐草(ふそう)蛩となる夕べ
念腹(ねんぷく)を祖として俳句良

寛忌

良寛の万葉かなの書の涼し
手毬つくをみなごひとり良寛忌

わらんべとおしくらまんじゅう良
寛忌

裸足(はだし)子を裸足の良寛おん
ぶせり

ここよりは良寛の里ねむの花
良寛や酒より月に酔うてをり

夕顔と向かひ合わせやかくれんぼ
良寛の笠に隠れて梅雨の蝶

一隅を照らす夕焼五合庵
国仙にゆづられし杖秋の声

子雀は屋根が遊び場五合庵
良寛堂メモを書きとる遠足児

青空へ飛びこむ鞠や良寛忌
托鉢にふるまはれたる零余子(むか
ご)飯

差向ひ櫓火(ほだび)ばかりがよく
喋る

たらちねの佐渡一望や涅槃西風(ね
はんにし)

またの日とてふに手をふる貞心尼
禅定(ぜんじょう)の粥にしみ入る

虫時雨
良寛さの毬に一すぢ夕焼色(ゆやけ
いろ)

天上を流る大河へ揚花火

ふるさとは良寛の里稲の花
相聞の仮名の涼しさ貞心尼

たらちねの母恋ふ座像海夕焼
孫達とてん手毬つきにけり

長躯良寛子らに膝折る蟻に寄る
卯(う)波立つ沖に鶯舞ふ出雲崎

はちの子の雪をはらいて歩みゆく

竹の子や後ろの正面良寛さん

良寛の書に秋草を低く活け

【俳句・高校・大学生の部】
(文部科学大臣賞 選者特選4入
選3 新潟県 新潟大学 虎風)

良寛忌辻ゆく風は唄に似て

「入選作品」

(選者特選1入選1)

良寛忌花植えし地を街と呼ぶ

(選者入選2)

夏休み良寛の書を目標に
(選者入選1)
夕やけの中でも続くかくれんぼ

【俳句・小・中学生の部】

「入選作品」

(選者特選1)

良寛や夏木立からこんにちは
筍を食はず育てる良寛さん

(選者入選2)

良寛の母に似た目や百日紅
良寛の書の如くかなナイアガラ

(選者入選1)

良寛の写真にうつる桜かな
良寛も歩いた道の鶯かな

手まりつき夕日ながめるりようか
んさん

良寛の心をやす波の音
良寛さん佐渡を見るたび母思う
かくれんぼしよう夕立笑うまで

国民文化祭にいがた
「詞フエステイバル」
良寛関係の入賞・入
選作品の紹介

その2 短歌

第34回国国民文化祭・にいがた2019
第19回全国障害者芸術・文化祭に
いがた大会の「詞フエステイバル」
で栄えある入賞・入選を果たした
作品のうち、良寛をテーマとした
短歌を紹介します。なお、作者名
は入賞のみとしました。また、選
者特選入選の数は選者の数です。

【短歌・一般の部】

(国民文化祭実行委員会会長賞

選者特選1入選1 新潟県 桑原

昌子)

良寛と児等の遊びし出雲崎の紙ふ
うせんに息を吹きこむ

「入選作品」

(選者特選1入選1)

読める字を書いてくれろとせがま
れて「いろは」と揮(ふる)う良寛
がすき

(選者特選1)

良寛を捜(さが)して駈(か)ける子
等の影呑んで太った田んぼの夕陽
藪椿落つる石段下りゆけばいと
も小さき五合庵あり

吊革の揺れに任せて生きて来し
良寛様の弟子になろうか

(選者入選2)

良寛に似た人がいる北越のローカ
ル線の春はうららかに

(選者入選1)

鯛の声しみとほる洞雲寺貞心尼の
墓碑ひっそりと立つ

ひだり眼の病むも見開き読みはじ
む『人間良寛』の(日常生活)

日暮れまで子らのあそびし鞠なら
む葉陰にいこひ虫とたはむる

老いの日を歌よみかわす人のいて
和みし時あり良寛さまに

笑みたたえ学童に道譲りたる老運
転手良寛のごと

若き日の妻の歩みはわれの後老い
て先行くはちすば通り

習字帖の良寛さんの風に会ひしわ
たしの青春の書道教室

車椅子押す友達の優しさで良寛様
へ訪ぬゆく旅

とんび追ふ良寛に似し養父たり戦
災孤児の吾等慈しむ

良寛の座像ま向かう荒き海佐渡を
閉ざしてふぶきとなれり

出雲崎に「良寛牛乳」売られて
ふくめば聞こゆ師の手まり歌

冬眠から覚めたメダカに餌をやる
床屋の主人良寛のごと

片栗の群れ咲く国上山(くがみ)の
稚児道に先導するごと岐阜蝶の飛
ぶ

絵本に見し良寛さんの庵なり笥貫
(ぬ)きは何処辺りか

ナスめく僧衣をまとう貞心尼う
ら若きかな寄りがたきかな

暮るるまで子等と遊びし良寛の手
毬いづこへ転がりゆけり

隠れん坊した想い出の寺の庭ひよ
っこり良寛でそうな日暮

飯たちて最期(さいき)を待ちたる
良寛さま冬の夕陽を見ていたろう
か

インテリの論ずるほどに春の日の
良寛さまは遠くなりゆく

春の谷間に葉わさびを摘む良寛さ
んの苔水の歌口ずさみつつ

【短歌・高校・大学生の部】
「入選作品」

(選者特選1)

良寛は僕にとつては牛乳で…一気
に飲んだ暑い日の夏

(選者入選1)

良寛と名の付く牛乳朝と晩コップ
に注ぐ姉越えたくて

良寛の心が踊る暖かな文字に触
(ふ)れれば春を感じる

良寛を知らぬ僕でも知っている越
後(よいと)雪米清酒

良寛の父の名由来の「新之助」大
粒艶持ち旨みを誇る

【短歌・小・中学生の部】

(新潟県知事賞 選者特選1 山

口県 光市立光井小学校 野村

慶)

年老いて旅に出で立つ良寛は皮膚
一枚と袈裟一枚で

「入選作品」

(選者特選1)

良寛は僧侶で歌人書家として僕の
中でも有名人だ

托鉢の中には希望も入るのか良寛
像は立ち尽くしたまま

国民文化祭にいがた「詞フェスティバル」良寛関係の入賞作品の紹介 その3 現代詩

第34回国民文化祭・にいがた2019

第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会の「詞フェスティバル」で栄えある入賞を果たした作品のうち、良寛をテーマとした現代詩の一部を紹介します。

【現代詩・一般の部】 (新潟県知事賞 東京都 倉田 史子)

母の島

ぼうぼう海の広がり
海鳥の気配すらない水の面
まどろみから覚めると
ぼんやり山のかたちらしきものが目に入った
ずつしりと光る地塊 白い氷雪の島が近づく
この島の裏側 海岸風景の美しいところ
むかし金銀鉱山で繁栄した集落相川があった
江戸三百年を潤した鉱脈 あふれる島の人口
その来し方を語り継ぐ郷土博物館の脇に
ぼつんと素朴な石碑が建っている

「たらちねの 母がかたみと あさゆふに
佐渡が島べを うち見つるかな」

良寛を生んだ母は佐渡相川の人
十七歳の時 親戚出雲崎の名主橘屋の養女に
やがて婿を迎え 生まれた長男が後の良寛

銅板に彫られ石におさまっている肉筆の一首
越後出雲崎の海岸に朝夕立って
海のむこうの佐渡を眺め
母を恋い素直にうたった和歌は胸に響く
だが歌人でも書家でもない生き方を貫いた

死期の近い母の見舞いで渡った越佐海峡
海面をみぞれまじりの雨が打つ
光る仏性を内に秘め世を駆け抜けた良寛を
私は日本海の黒いうねりの奥に視ていた
佐渡が母という想いが心を温かく包み始めた

【現代詩・小中学生の部】 (日本詩人クラブ賞 新潟県長岡市立青葉台中 学校 宮下 月希)

心の師

私の心の師 永遠に尊敬する人
自然を愛し、子供を愛した
どんなに自分に害を与えようとする
人さえも憎む心を持たずして愛そうとする
今の時代じゃかえって損をする
バカにされるのではないかというほどの
お人良し
こんな人物が今この世に
存在するのだろうか
小さな頃人はみな、憎む心を持たない
ありのまま、素直に生きていた
それは親がいたからこそ
並外れに素直になれるのだ
こんな全てを愛し生涯を生きた良寛さま
私の物心ついてからの尊敬する人物
彼のような人間に私は近づくことが
出来るのだろうか

人の言葉を信じることは大切
けれど：

今を生きる為に疑いも必要
私はそう思う

たとえ自分がだまされようと
傷つくことがあっても、人に誠実に

真実をつくらうとする
最強の生き方だ

人をだまし、だまされの時代
心がごつている

でも考えてみよう
人はやさしさをもち生まれてきた

だから人は心の持ちようであられるもの
子供を愛した良寛さま

きつとあなたは素直な心でおられたから
素直な心で接すれば

人は愛されるのだということ
私は後世へ伝えたい

素直な心と共に。

他にも、良寛に関連すると思われる語句
が含まれた作品がありました。

○一般の部の国民文化祭実行委員会会長賞「手鞠」(京都府 三ツ谷 直子)に「良寛のついた手鞠」が、

○新潟県教育委員会教育長賞の「おもかげ花火」(神奈川県 加勢 健一)には「良寛の里」が、

○日本詩人クラブ賞の「まなづらの花」(埼玉県 関根 裕治)には「天上大風」が、

○小・中学生の部の日本現代詩人会賞「散る桜」(茨城大学附属小学校 齋藤 悠一郎)には「散る桜」が、

選者特選の「流れ星」には「月のウサギ」
が含まれていました。